

第54号

執筆者
@短信

山岸 若菜 連載二回目

今年の夏はとても暑かったです。訪問看護の仕事をはじめてから一番暑かった気がします。お願いやからクーラーついて！と願いながら玄関を開け、ついてなかった時の絶望感。「お部屋の中でも熱中症になるからクーラーつけましょう。」と熱く説得しても、聞き入れてもらえない時の無力感。ほぼサウナ状態のお家から出て、暑いはずの外が涼しく感じられた時の解放感。全部しんどくて、自分が倒れるかとも思ったのは初めての経験でした。少しでも楽しみを作るため、この夏は一人でひそかに『汗拭きシートはどれが一番優秀か？』を比較実験していました。5種類の汗拭きシートを試した結果 GATBY の氷冷シリーズが栄えある栄冠に輝きました！大判というのがポイント高かったです。まだ暑い日が続くようなので、興味があれば是非使ってみて下さい。

ある訪問看護師のアタマの中
P325～

宮井 研治 連載二回目

「焚き火、孫、ときどきサーフィン」
どうです、何かのエッセイのテーマみたいでしょ。これは私の人生終盤のとりあえずのメインテーマです。現時点でのものな

ので、とりあえずと申しました。自分ではなかなか気に入っています。このテーマの実践を人生終盤の指針としようと考えています。



焚火の関しては、これ即ち、キャンプです。コロナ禍でソロキャンプデビューし、年3回はソロキャンプに出かけてきました。もともと、キャンプ好きの友人に連れられ、キャンプはそこそこ楽しんできました。キャンプ歴は長いのです。決して「ひろし」に触発された訳ではありません。ただ、ソロでやるというのは、コロナがなければなかなか踏み出せなかったと思います。いくら管理されたキャンプ場でのソロとはいえ、一人でキャンプ設営、食事の用意、おたおたしていたら、あっという間にあたりは夕やみに包まれるなんてこともありました。そんな時の焚火の炎のなんと心強いこと。

孫に関しては、ご多分に漏れず、まあ可愛いし、面白い。人の孫自慢は敬遠しても、自分のこととなると別のもというのは、人間だから仕方ない。ご多分に漏れず「働く車好き」系の2歳前の男子です。YouTubeでもこうした「働く車好き」系幼児および児童のための動画はたくさん up されていて、自分の孫が関心を持つからそのジイジも関心を寄せるという、世の中はよくできたものです。その孫と母親である私の娘を車に乗せ、運転中、ある工事現場に差しかかりました。そうすると、クレーン車やブルドーザーが林立しておりました。なかなか圧巻の光景で、後部座席チャイルドシートに陣取る孫にすぐさま伝えます。はやく反応を確かめたいジイジなのですが、何せ後部座席で反応はわかりません。母親に聞いても

「見ているよ、それより運転気を付けて」なんて言われるのが関の山です。工事現場を通り過ぎて、ややあって、孫がおもむろに人差し指を一本掲げ「もういったい！」と言いました。通訳すると「じいちゃん、もう一回今の景色見せてよ、おねがい」ということなのです。母親と大笑いですわ。こん

な話どうでもいいですか。

さて、最後のサーフィンです。これは死ぬまでにやってみたいスポーツということではなく、一度サーフボードを所有したことがあります。所有しただけではなく、何度かサーフィン仲間にくっついていたり、一人で四国の海に出かけたりしていた時期があるのです。しかし、お世辞にも立てたとは言えない。当時、通っていたサーフショップ屋はショートボード専門でして、四十の手習いよろしく始めたオッサンが乗りこなすには、ちとレベルが高かったのです。ロングボードやもう少し浮力のあるボードで、夢をもう一度です。しかし、海にさえ出かけることが少なくなった今日この頃、ジイジの夢は叶いますことやら？

人生は対応のヴァリエーション
P332～

内田 一樹

先日7月20日から23日の3泊4日で今年度の「東北と復興」のスタディツアーを実施しました。今回はその報告です。この夏は全国私学夏季教育研究集会や教育科学研究会で選択講座「東北と復興」についての実践報告をしました。その中で感じたことは他者とのコミュニケーションを通してこの選択講座の目的や形などのアイデンティティが浮き彫りになっていくという感覚でした。

社会科の授業を
対人援助学の視点から
P310～

来須(らいす) 真紀

一時保護所に勤務し始めて4か月がたとうとしています。学校という組織を冷静に外から眺めていたと思っていたのですが、外からは見る事ができていたものの冷静には見る事ができていないなと思う今日この頃です。

この4か月、一時保護所でたくさんの子どもたちと出会ってきました。私自身、学校に勤めている十数年間かなりの個性豊かな子どもたちと関わってきたのですが、一時保護所は、その5年分を凝縮したような出会いが続きました。なかなかの楽しさです。「この子は、どう考えているのだから

う?」「なぜ、このようなことを言うのだろうか?」「どうしてこのような行動に出るのだろうか?」と考えることが、学校現場にいたときの1000倍多く、濃厚な日々です。

日々様々なトラブルや小競り合いがおこる(まあ、子どもが2人以上集まればトラブルは起きるのが自然なことなので)のですが、そのトラブルや小競り合いの半数は、大人の都合に子どもを合わせようとすることで起きています。結局ルールを守っていない守っているどこまでがアウトどこまでがセーフなのかみたいな。(私はこの手の議論は大の苦手です、)どこでも同じだろうと思うのですが、ルールや規則を守らせようとするのみが目的になってしまうと、お互いが苦しい思いをしてしまうことも少なくないなと。学校も福祉現場も似ているところだなと感じています。

もう一つ。暗闇が怖くて寝付けないと訴えてきたある子どもにしばらく付き合い、雑談していた時のこと。

子ども:「大人は、結局ルールや規則で都合よく子どもを動かそうとするからいけないんよ。だから余計にいうこと聞かないんよ。そこに気づかないなんて馬鹿だねえ。」

私:「そんな経験がたくさんあるん?じゃあ大人にどうしてほしかったん?」

子ども:「冷静に、淡々と、なぜダメなのかという理由を何度も言ってほしかった。」今更ながら「へえ」と腑に落ちました。子どもから教わるとは、こういうことなんだなと思いました。皆さんはどう思われましたか?ちなみにこの後、私は「就寝時間を守らせないで、ルールを破らせて何を考えているんだ!」と顰蹙を買ってしまったのは言うまでもありません(笑)

教室の窓から
P307~

山本 竜司

本業と学業に追われており、今号で一旦休載いたします。生涯学習関係の学会など、どこかでお会いしたら、お声掛けください。またの日までお元気です!

社会教育の周縁
P298~

中谷 陽輔

3日坊主ならぬ3回坊主になりそうなどころを何とか踏みとどまった連載 4 回目です。

前回投稿時から季節は変わって夏。数年ぶりにコロナ渦から抜け出た夏に、プールや夏祭りなど、子育て当事者としては子どもにイベントを満喫させてあげられることが嬉しい・・・と思っていた最中、7月に初PCR 検査からの陽性、つまりは新型コロナウイルスに初感染いたしました。コロナ渦中では、病院勤務の妻や、良く熱を出す我が家の幼子たちは何度も PCR 検査を受けていたのに、我が家の初コロナは私。

理不尽なようで、自然事象なんて理不尽なことばかりだしな・・・とか、季節に1回くらいは何か起こるものなのかもな・・・と40代の自分の身体を振り返っています。

ちなみに本稿を投稿した翌日、数年前から年に1回受けている人間ドックが控えています。自分と家族の未来に向けて、まだまだ健康でいたいものです。

人生で今日が一番若い日です。引き続き、よろしく願いいたします。

コソダテバシリ
P300~

櫻井 育子



広島大会で書道のワークショップ

「目に見えない大きなものの力を信じている方だ。とりあえず無事に帰ってきたらありがたいと思うとか、何かいいことがあるとありがたいと思うとか、結構な頻度で、ありがたがっているわたし、と思った。

この連載も、誰が読んでいるかわからないけれども、なんだか楽しくなって書いている。と、そんなある日、「広島大会で書

道のワークショップをやりませんか!」と声をかけていただいた。宮城からは遠い。けれども、もう「おもしろそう!」という方向に向かったら止められない。「よくわからないけどいけます」という即答。目に見えない大きなものの力が働いているときには、流れに任せてしまおう。ということで、対人援助学会そのものが初参加ですが、学会で墨遊びをする変わり者が宮城からやってくるということでぜひ当日、みなさまにお会いできるのを楽しみにしております。

生涯発達支援塾 TANE 代表櫻井育子
shukou0122@gmail.com

<https://ikuko-sakurai.com>

わたしはここにいる
P296~

原田 孝

今の教育界は、激しく変化の波が押し寄せています。様々な方向を向いた波で、「それはちょっと極端では・・・」というような方向への波もあります。基本的に教育は子どもたちの成長を支援するものです。健全に、バランスよく、しかも合理的に成長をサポートできるシステムの構築が目標であるべきでしょうね。今回の居場所も、単に不登校生の居場所だけで OK ではなく、その原因へのアプローチも同時に行いましょうということ内容になっています。

先生のための16に言葉
P295

鳴海 明敏

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設(現在は、児童心理治療施設)の園長を引き受けてから、14年目に入っています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています、ということで、サブタイトルは「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

児童心理治療施設は、現在全国で53か所運営されています。それらの施設で構成される協議会は「全児心」という略称で活動していて、施設長会議や職員研修会などをブロックごとに持ち回りで開催しています。

今年度は、9月12日～13日の日程で、「2023年度全国児童心理治療施設職員研修会」が開催されます。担当は関東ブロックの「嵐山学園(埼玉県)」です。今回は、いろいろ新しい取組があるのですが、その一つが、オンデマンドサービスを活用した「事前研修」です。これまでは2泊3日の日程で開催されていたのですが、行政説明(一部)や基調講演、海外研修報告などを、オンデマンドサービスでの「動画視聴」にして、事前研修とすることで、会期が短縮されました。基調講演は、愛育相談所所長の齋藤万比古先生で、タイトルは「児童虐待が剥奪した心の発達をどう支え再建するかー児童精神科入院治療の観点から」です。

また、1泊2日の1日目は、午前中に社会福祉法人横浜博萌会 理事長 高瀬利男先生(児童心理治療施設 横浜いずみ学園)の特別講演があり、午後は、事例検討、実践報告、意見交換会があります。

2日目の午前中は、「児童心理治療施設での対話を考える」というタイトルのシンポジウムがあり、講演・シンポジストは、みどりの杜クリニック院長 森川すいめい先生という予定です。午後は、嵐山学園の施設見学があります。

先日のカウンセリング研究会のワークショップは、無事終了。参加者20名。今回初めて参加した人が一名いましたが、その方以外は皆「リピーター」で、札幌、宮城、埼玉、東京の各地から参加してくれました。3年間のブランクを感じさせないで、セッションが始まると、あっという間にいつもの顔に戻って、楽しいワークショップでした。やっぱり、対面はいいねと、再会を約しての解散でした。

児童心理治療施設の園長室から ～こかげのにちじょう～ P293～

高木 久美子

暑い夏でした。遷延性意識障害の方の在宅介護でも暑さ対策、こもり熱への対処は大きな課題です。東海地区遷延性意識障害と家族の会「ひまわり」の会報も9月に発行されます。会員への郵送の他、イベント等の時にご希望の方にお配りしています。毎回家族の手記など、良い記事が

たくさん載りますので、またマガジンでの投稿でもご紹介させていただきたいと思えます。あと、本稿に書きました東海地区遷延性意識障害と家族の会「ひまわり」主催の地区交流会についてご案内です♪

「遷延性意識障害 Yさんのお話しと音楽と親睦の会」

2023年10月7日(土) 三重県松阪市にて。詳細は同「ひまわり」HPにて。ヨミトリ君も登場します！ぜひお気軽にご参加ください。

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょ！ P283～

原田 希

牧場へ訪ねてくれる人が増えた夏でした。酪農祭や花火大会も復活し、楽しいながらも出役が多く、そして北海道も異例の暑さ！久しぶりに心身ともに燃え尽きるような夏だったな、と思い返しています。中でも、牧場に来てくれた子どもたちが一緒に虫を怖がって、ずっとソワソワしていたのが印象的でした。短い夏に命を燃やして生きる虫たち。勢いがケタ違いなかもしれませぬ。ウシとムシに驚かされた記憶に残る夏休み、牧場を舞台にどんな絵日記を描いてくれたか楽しみです。



原田牧場Note P212～

野中 浩一

この夏は旅三昧でした。7月はフリースクール生徒・職員28人で「隠岐の島」へ。そして8月はじめは父の納骨で「熊本・福岡」へ。その後8月下旬に中2の娘と陸上の大会を見に「愛媛」へ。さらに続けて高2の娘の演劇公演を見に「東京」

へ。

そんな夏のあれこれを思い出す中で特に残っていることは、熊本の親戚の家でいただいた手作りの筍の煮つけといきなり団子のおいしさ。地元の人たちが長年育んできた、素材を生かした至高の旨味。

「島根の中山間地から Work as Life」 P274～

畑中 美穂

長年の友人が亡くなった。ここ数年は病気を患って入退院を繰り返していることは耳にしていたが、COVID-19下でもあり見舞う機会は無かった。亡くなったと聞いたのは共通の友人からの連絡で、すでに葬儀も済ませたとのこと、家族だけの見送りであったらしい。農業を営んでいた人で、苗が順調に根を張ったのは見届けたのではないかと思う、しかし秋の収穫は、みるごとく逝ってしまった。四季のなかで自然を相手に生きていたその人を思い、季節の移り変わるあちらこちらにその存在を思い浮かべる。

私の郷里では盆には山に送り火を灯す。まだごく「新米」のその人も、やっと空に着いたと思ったら盆で下界に下り、また慌ただしく空に戻ったことだろう。私の親しかった多くの者たちと同様にそのなかのひとりとして、小さな火を灯して手を合わせた。

一語一絵 P259～

渡辺 修宏

2023年夏、毎日暑い日々が続いています。暑い日に「暑い暑い」とつぶやくと、実際以上に暑いと感じるものです。心頭滅却すれば火もまた涼しいと言いますね。

でもかといって、暑くないよ、とか、ちょうどいい、とか、しまいは、寒いくらだ、つぶやくと、家族をはじめ、周囲の方々に変な目でみられます。

その確率100%です。…だから結局、暑いとか、暑くないとか、そういった問題を問題として認知しないのが一番なのです。爆。

対人援助実践をレポートする この一冊 P269～

米津 達也

この夏も猛烈な暑さを感じる。標高1,000m以下の山々はまさに暑さとの闘いだ。盆の台風前に歩いた山の林道に古新聞が一枚落ちていた。昭和17年とある。78年前となるが、この保存状態はおかしい。何故、この場所で、この状態で遺っているのか。当時は戦火真っ只へ。ミッドウェー海戦の年。「欲しがりません、勝つまでは」と、勝つことを疑わなかった。盆のこの時期に過去からの手紙を視ている。

川下の風景 P233～

本間 毅 退院支援研究会

今回は引き続いて「チーム医療とナラティブ その2」です。記事のもとになった講演が始まる直前、短時間ですが主催者と「研究者のモラル」について話しました。詳細は省きますが、「執筆者からのレスがない時に編集者が感じる不安や焦燥感」、「締切りを守ることが必ずしも世の中の共通認識ではなくなったこと」、「誰にも分らないことは何もなかったかのように堂々と発表したものの勝ちなのか」など。この大変さとともに仕事に励む出版・編集者の胸中はいかばかりか。長編『豊穡の海』の最終章『天人五衰』を書き終え、担当の編集者に必ずその原稿を手渡すよう家族に託し、市ヶ谷に出陣した三島由紀夫という人物に私は敬意を払います。

読者によって、私の記事の題を「チームワークとナラティブ」と読み替えてもらっても構いません。ただし医療につきものの、「専門家暴力」のことは必ず念頭に置いて下さい。銃創や刀創を負った患者さんは、ほぼ確実に破傷風などで命を落とす時代、外科医は麻酔もせず受傷した手足を切り落としました。先の沖縄戦で軍医や衛生兵だけでなく、ひめゆり学徒隊までが強いられた悲惨な行為を忘れてはならないと思います。記事の中で詳しく述べますが、兵士の怪我という物理的な理由より、戦争遂行という国民にとりついた心理・精神的な拘束がなせる業だったのでしょう。医療を「鬼手仏心」と現すことがありますが、これは非常時以外、「ジコトウスイ」と読むのが正しいことがあります。面談や退院支

援では、このようなことがあってはならないという私のナラティブを読み取っていたできれば幸いです。

追伸、「特別寄稿」もご覧ください。

幾度となく会い、 語り合うことの意味 P240～

玉村 文

先日子ども達が豪快に遊んでいる最中に、下の子が転んでしまい腕を骨折するハプニングが起きました。2歳児の腕にギブスが巻かれ痛々しい姿に。本人は次の日にはケロツとして一週間後にはギブスを気にせず腕を動かすように。一方で親のわたしは、ギブスが外れるまで食事やお風呂、着替えなどお世話が大変になりました。そんな思いよりも大きな感情は、子どもの怪我がとてもショックだったことです。仕方のないこととはいえ衝撃でした。避けられたかもしれない後悔と、痛がる様子が可愛そうで可愛そうで、わたしも傷ついてしまいました。傷つくことなく幸せに過ごしてほしいという感情は、推し活でも同じだな、そんな着想を得て今回のテーマは、「推し活」。応援するというこのマガジンのテーマにも重なるなど感じてまとめました。

応援 母ちゃん！ P220～

川畑 隆

中山道の馬籠(まごめ・中津川)・妻籠(つまご・南木曾)・奈良井(ならい・塩尻)を巡ってきました。7月の梅雨明けの暑い日に、妻と二人の一泊旅行にクルマで出かけました。

馬籠は坂がけっこう急。いろんなお洒落なお店が並んで外国人の観光客も多く、まるで清水坂を歩いているような気分でした。食堂のおじさんは汗を拭き拭き五平餅を焼いたり売ったりお給仕したり、そこで冷たい蕎麦をいただきました。隙間から入る風と旧型の扇風機が心地よく、冷たい甘酒もおいしそうでしたが、飲み損ねました。島崎藤村の生家の記念館に入りましたが、焼け残ったという藤村の勉強部屋に夏休みの雰囲気漂っていて、とても懐かしい感じがしました。

炎天下の馬籠と妻籠の間をハイキングしているのは外国人の家族がほとんどで、私たちはそれをクーラーのきいた車の窓から眺めました。



妻籠は一転、人が少なく静かで、道は平らでした。お店も少なく昔がそのままって感じで、こちらのほうが気に入りました。「ここに泊って早朝にこの雰囲気の中を歩きたかった」というのが、妻の感想でした。松代屋という有名な旅館の古い看板を目の前にして、ここに予約しとけばよかったと思いました。

翌日は奈良井宿。馬籠と妻籠を足して割ったぐらいの賑やかさで、一軒一軒に昔の旅館名を書いた表札が掛けていました。連なった旅籠に挟まった中村邸という商家が公開されていて、昔のままの二階の客間から街道を眺めました。神社の木陰がとても涼しくて、そこでもよい時間を過ごしました。

帰りには、恵那にある坂折棚田に立ち寄りました。見事でした。他に誰もいないベンチから見、夏の夕方の遠景の山と眼下の棚田(千枚田)の緑、そして心地好い風の中において、極上の気分でした。「緑の違う山が近い」…そんな環境の中を、二日間、車で走りました。

サイコロジー P215～

高名 祐美

4月から県教育委員会から委嘱を受け、スクールソーシャルワーカーとして活動することになった。7月になって、待ちに待った初めての支援依頼があって小学校に伺った。ソーシャルワークは長年実践してきたが、学校という場に出向くのは初のこと。とても緊張した。依頼があったのは小学校4年生、昨年度から不登校になっている女子生徒への介入だった。ケース会議では担任の先生がしっかりと目標をたてて、関

わっていることが伝わってきた。それでも良い変化がでてこないということで、スクールソーシャルワーカーの介入をということになった。子どもとどんなふう面接をして、信頼関係を形成するにはどうしたらいいか。母親や父親の悩みを受容し、学校とどう折り合いをつけていくか。新人 SSW として考えている。フリースクールでの経験をいかし、担任の先生の頑張りを承認しながら、真摯に丁寧に関わってほしいと思っている。

P235～

松岡 園子

先日、ヤングケアラーをテーマにした職員研修会での講演依頼を受け、高知県の土佐清水市へ行かせていただきました。高知龍馬空港から車で 3 時間弱かかる足摺岬のある、海と自然に囲まれた会場です。学校関係者や児童福祉担当の職員さんが多く参加されていました。後日、感想もいただき、気持ちの面で共感しあえることが多かったのですが、私の育ってきた神戸と環境がずいぶん違うと感じました。この土地で私が 10 代だったら、あの行動はできなかったかもしれない、また、ここだったら、ああいう展開にはならなかっただろう、反対にこういうことができたと思うこともいくつかありました。どちらが良いというものでもなく、その人が今ある環境で、いちばん腑に落ちる方法を見つけたいことが大切なのかなと思いました。

統合失調症を患う母とともに

生きる子ども

P205～

杉江 太朗

児童福祉の領域で働く杉江です。最近、仕事で出会う子どもたちがカードゲームに夢中になっています。

ニュースでも、発売日の前日から並び、開店と同時に売り切れてしまうという話を聞いたことがあります。店頭でカードを入手することは難しらしく、新しく発売する際も、予約抽選をする必要があるとか。ここまで入手が困難である理由を聞いてみると、1 枚数十円で買えるカードが、種類によっては、10 万円以上で転売されており、大人が投資感覚でカードを大量購入し、

一獲千金を狙っているとのことでした。そういえば、カードの買い取り業者も多くなったような気がします。子どもらは学校があるので、並んで買うことは出来ません。大人の中にも純粋にコレクションしている人もいます。転売目的で買っているのは、子どもでなく大人の方が多いでしょう。

ビックリマンチョコのシールもそうでしたが、何に値段がつくかわからないシステムはどの時代もあるのでしょうか。ちなみに子どもらに聞くと、口をそろえて言うのが、ポケモンの「ナンジャモ」という人のカードがかなり高額で買い取りしてもらえそうです。子どもらにも転売の意識が……。純粋に楽しむことが難しくなっているような気がします。

「余地」相談業務を楽しむ方法

P202～

浅田 英輔

達国日記が終わった。本編で何度か取り上げているが、ヤマシタモコさんのまんがだ。最終回を迎えてしまった。とてもさみしいが、とてもよい終わり方だと思う。「言語化すること」って難しいよな。実際はここまでできるかなあ。できないよな。実写化されるらしい。ガッキーがマキオちゃん役らしい。最初ちよつと驚いたけど、意外とアリだな！？とも思えた。何をどこまで描くのか不安だけど、楽しみにしよう。完全にひとりごとです！

臨床のきれはし

P97～

三浦 恵子

今年もまた暑い夏がやってきました。西瓜がおいしい季節です。

昨今は家族構成の変化もあってか、都市部では一口サイズにカットされ、丸々一個の西瓜の西瓜は専ら贈答用として果物店で信じられないぐらいのお値段で鎮座しています。かつてスリードア等の大型冷蔵庫が登場した時は、「西瓜も丸ごと入る！」というフレーズでテレビで宣伝されていたことを思い出します。私は中高生の頃、腎臓を少し悪くしており、夏の午後の思い出は、西日本では西瓜やミカンの産地として

知られる地域の農家の方が格安で販売されているお店で購入した西瓜が定番だったことも思い出の1つです。

ただ今でも私の嫁ぎ先の近隣では、身近な生協の店舗でも丸ごとの西瓜をごくお手軽に入手できます。ただ、それは中で少し身が割れた家庭用(味は万全です)です。身割れなく大きく育てるのは実は難しいと聞きました。大きなものは10から12キロサイズになります。



この西瓜を毎年、御縁のあった子ども関係の施設等に生協経由でお送りするのが毎年の関連行事になっています。もちろん支える会といった組織には入っていませんが、都会の子どもたちにこの丸ごとの西瓜を体験してもらいたいなと思い、毎年同じ時期に送り続けるのが我が家の関連行事です。数年を施設で過ごす子どももおられる施設では、今年も来たと喜んでくださることが何よりうれしいです。

当初はその時々でお送りするものを変えようかとも思いましたし、特にコロナ禍の時には個別に食べられるデザート菓子などがよいかとも施設の方と相談しましたが、迷わず「今年も西瓜で」と声が返ってきました。

子ども支援に関わる方から、毎年同じ時期に欠かさず同じものを飽くことなく届られることは、安定した日常生活を送ることが難しかった子どもたちにとってマンネリではなく、ずっと気持ちを寄せている人がいるという意味で、貴重な「安定した日常」なんですよ、と教えていただきました。この言葉は対人援助職としてとても貴重な教えだと今も思います。

結果的に数年後には「三浦(無印)さん」から「西瓜の三浦さん」に……。 「西瓜の三浦さん」として認知していただけることをありがたく思っています。

更生保護官署職員

現代社会を『関係性』という 観点から考える P191～

迫 共

前期授業が終わり、やっと夏季休業に入りました。例年ならこの時期に実習訪問があったのですが、今年は前期授業期間に保育所、児童福祉施設、幼稚園の実習訪問があり、授業スケジュールが圧迫されることに。授業&試験の期間はやっと終わりましたが、夏休みも公務員試験対策や入試関連業務、会議などがあり、研究とリフレッシュに集中できることもなく…。世間は「コロナ明け」という認識のようで、お盆期間に旅行やイベントに行く人が多いようですが、コロナは収まっていないし、酷暑に台風、外国人観光客の多さにも、ちょっと気が引けています。



それでも奈良の燈花会に行き、奈良ホテルで一泊。食事と景色と鹿に癒され、灼熱にゆでられてきました。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ P198～

黒田 長宏

本文にも多少書いてしまったが、新庄監督の瘦せろという指示に従ってかっこよくなった日本ハムファイターズの清宮幸太郎を応援しはじめてしまったため、日本ハムファイターズも応援せざるを得なくなってしまい、3時間くらい、GAORAとか、DAZNでほぼ毎試合観戦することになってしまい、おかげで、私のライフワークのYouTube、『婚難救助隊』の重要なネタであるドラマを観る気力が萎えてしまい、これでは日本ハムファイターズをどうこじつけて婚活ネタに持っていけばいいのか考

えるしかないのだろうか。これを書いた時点で、YouTube登録者は302名である。感謝である。

<https://konnankyuuotai.jimdofree.com/>

あお結婚 P166～

松村 奈奈子

7月の京都があまりにも暑かったので、ふらっと長野県の標高2000mのしらびそ高原にドライブ旅行。そこは山の中の1軒宿で、きれいな星空が自慢のお宿です。夜になると宿の駐車場に、貸し出してくれたマットを敷いて、お客さんがみんな寝転んで「星空観賞会」がスタート。宿が呼んでくれた「星の先生」がレーザーポインターで360度遮るもののない夜空で、星を直接指して解説してくれます。プラネタリウムは好きで何回も見て来たのですが、いやー「本物」の夜空での解説、感動しました！。さすが山の中、肉眼でも十分星を堪能できます。驚いたのは、いくつもの白い物体が少しの間見えて、すーっと消えます。未確認飛行物体か？と思ってたら「あれは人工衛星。太陽が当たっている時は白く、陰に入るとすーっと消えて見えなくなります」「今日は人口衛星多いですね」と星の先生。生まれて初めて、人工衛星を肉眼で見ました。天の川もキレイに見えて、子どもも大人も、夢中で2時間以上寝転んで夜空を見つめていました。本当に楽しかったー。

精神科医の思うこと P137～

柳 たかを

「習うより慣れろ」

僕が宝塚の芸大教員だった頃、東京から何度かマンガコースの授業に松本零士先生に来ていただいた。そのころマンガコースだけで300人ぐらい学生がいたので、授業は舞台を見下ろす設計の階段状の客席で構成された劇場ホールで行った。ある授業で松本先生が好きなことを徹底してきわめることもマンガ製作には大切だという話をされた。先生の作品には未来の宇宙船や第二次大戦時の戦闘機や爆撃機が活躍する作品も多い。なかでも

WW2時代のドイツ名戦闘機フォッケウルフ Fw109 をテーマにした作品がある。敵戦闘機との空中戦シーンでは、パイロットが急旋回のG(加速度)に耐えながら照準器内に敵の機影をとらえられるかが、ドキドキする臨場感いっぱいの見せ場になる。照準器を簡単に解説すると中央に十字のドット線が刻まれた円が表示されている透明スクリーン。戦闘機から発射される機銃弾は、散水用ホースから放水される水流に似ており、ホース(銃口)を右に振ると(右旋回)、出た水流は左へ弧を描きながら遅れてついてくる急旋回する敵戦闘機を照準器の真ん中にとらえて機銃弾を放っても、弾が敵機に到着する時には敵はすでにそこにいないのでなかなか当たるものではない。その対策として旋回にあわせて撃った機銃弾の未来到達位置をスクリーン状に光点で示してくれるのが光学照準器で、第二次大戦の戦闘機や爆撃機で使用された。先生は光学照準器の実物を海外旅行の時に蚤の市で手に入れ、持ち帰り職場で日々撫でるように細部までチェックし、あれこれ当時の空中戦のシーンを想像されたというお話を聞いたことがある。やがてその経験からフォッケウルフ Fw109 をテーマにした作品が生み出された。好きを頼りに時間をかけて調べる、ゴールにはいつかたどり着くと楽しみに、あえて遠くにおいておく、苦労も好きなことなら楽しい時間だ。ややこしい部分は、手を動かしてメモやスケッチを丁寧にするとうちで整理されてくる。少し手間と時間はかかるが、子供時代にはそういう余裕がなく辛抱できないから失敗したもの。僕の作品作りも似たような面があると思っている。新しい未知のテーマで作品アイデアを生み出そうとしてもすぐにはこれだという案にまとまらない。でも好きの力を信じてモノ(情報)に触れて目をつむっていてもイメージが湧いてくるまで思考を繰り返す。(習うより慣れろ)ということわざがある、読書でもなんでも同じことを100回繰り返せばいいやでも自分のモノなる頭に入ると…まあ～たしかに(習うより…)、その通りだと思う。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ P143～

団遊

先日、劇団四季「アナと雪の女王」を妻と娘小5の3人で観に行きました。実妹のこと葉ちゃんが劇団四季で長く女優をしていたこともあり、私自身は色々な作品を観てきたし、高1息子も何度か観に連れて行ったことがありますが、小5娘は初めてでした。

作品はとても面白く、演出も豊かで満足したのですが、私が一番嬉しいと感じたのは、一幕が終わった後に、娘が目を輝かせて「スゴイ！びっくりしたし、面白い！」と声をあげたことでした。その感情に、「自分も少し変わったな」と思いました。

というのも、私は、家族行事に関しては「まず自分が楽しみたい」というタイプです。ですので、極端な話、子どもたちが喜んで自分的にツラな場所やお芝居だと、疲れを先に感じるタイプ。ところが、確かに「アナ雪」は私も楽しかったのですが、その満足感とは違う喜びを、一幕の終わりに感じたからです。

自分が何を楽しいと思うか、何を喜びに感じるかというのも、当然年齢とともに変化するものだと思います。しかし、その変化が何を契機に、どんなタイミングで起こるのかは、私には予測がつきません。気付いたら、そうになっていた。不思議です。

団遊の脱線的経営言論

P35~

村本 邦子

6月には広島、静岡、沖縄をめぐり、7月はオーストラリア、8月はネパールと飛び回っている。年齢を考え用心して、体に無理がかかっていないかと、時々、立ち止まっては体の声に耳を傾けているが、今のところ快調である。やはり、好きなことしかしていないというのがいいのか!? 経験させて頂いたことを世の中に還元するという循環をいつも意識しているものの、こちらはやや滞り気味ですみません!

周辺からの記憶 —東日本大震災家族応援プロジェクト—

P121~

國友 万裕

いよいよ来年の2月で還暦です。

還暦になったら、連載のタイトルを変えようと思います。今まで、「男は痛い!」でしたが、これからは「還暦マッチョを目指す(仮)」みたいなタイトルにしようかなあと考えているんです(笑)。人生のシフトを変えるのにいい時期です。

まだ、考え中なのでどうなるかはわかりませんが、僕は歳をとってもできる限り若くいるのが自分のアイデンティティだと思っているので、マッチョなお爺ちゃん、かわいいお爺ちゃんを目指したい。

そうすると「男は痛い!」というタイトルで連載ができるのはあと2回ですね。正確には来年の3月にはもう60歳になっているから1回なんだけど、まだ原稿の締め切りの段階では、50代なので。

内容もこの機会に少し変えようと思います。もう60歳だから余生をどう生きるか。終活の連載ができたと思います。とは言っても、今は余生が長いから、まだ30年以上あるかもしれませんけど、とりあえず、健康や筋トレやおひとり様の生活に焦点をシフトしたいと思います。

よろしく願いいたします。

男は痛い!
P91~

西川 友理

大和大学白鳳短期大学部で保育者養成に、その他いくつかの場所で社会福祉士など福祉系専門職養成・および育成に携わっています。

「西川先生はねえ、とにかく、変化に時間がかかるひとです。焦らず、こつこつ、努力して、果報は寝て待て、です。」



10年くらい前に、元教え子の占い師(介護も出来ちゃう占い師!)に、占ってもらっ

た時の言葉です。人生で、お金払って占ってもらったのは、後にも先にもこの時だけ。だから、強烈に覚えています。

今回の記事に書いた保育者の対話の場についても、「やってみたいなあ」と思ってから開始するまで3年です。「おっそ!」「やっとか!」と自分に突っ込みたくなる時に、いつも上記の占い師さんの言葉を反芻します。いつもありがとう、Hさん、あなたのあの時の言葉のおかげで、他の人と比較するより、自分でいられる方が大事だと思えます。

今回の記事に関連して、今年度の対人援助学会で保育と対話(当事者研究)について、大切な仲間と一緒に、考える場をもたせていただけることになりました。どんな場になるかなあととてもドキドキしています。でもね、こっぴて本当にみんなで考えたいポイントなんですよ。保育や対話に興味がある方、いっしょに考える時間を過ごしましょう!

福祉系対人援助職養成の
現場から
P64~

坂口 伊都

昨年の暑くなり始めた頃、私は体調を崩し、仕事を辞め、急にいろいろなものを失って途方に暮れていました。突如、あり余る時間ができてしまった。明日が来ることに憂鬱になり、簡単に抜け出せるものではないとわかってから、仕方なく腰を据えて自分と向き合うことをしてきました。この体験は、これからの生活を送る上で意義ある時間だったと確信しています。年度も変わり、また忙しい生活が始まり、時間に追われる中でしばしば、1年前の自分を思い返しています。

そんな中、友人のAさんが、8月19日に、1年前の今日、一緒にランチをして散策していたことを知らせてくれました。10年日記に書いてあったそうです。こんな暑い頃に出かけていたのか。Aさんと、尽きることなく何時間も話をしていました。意外な共通点を見つけたりして、しんどい時に光が灯ったようでした。今でもその時のことを鮮明に思い出しますし、これからも忘れられない時間になりました。そして、「もう1年になるのだねえ」と連絡をもらって、また幸せな気持ちにしてもらいました。

いろいろな人と出会い、縁が遠のくことも起こりますが、繋がりが続ける人もいます。改めて、いろいろな人に助けってもらって感謝です。自分のことは自分で決着させていくしかありませんが、一人で何とかできるものでもないなあ実感しています。

立場が変わると何が見える

P115～

河岸 由里子

10代の自殺が増えている。先日ビルから二人の中学生が飛び降り自殺を図った。一人は亡くなり、一人は重体である。夏休みや冬休みなどの休み明け近辺での自殺は多い。それを止めるべく、「心のケアを無料で届けたい」というプロジェクトを友人と始めた。Facebook でご覧になった方もいらっしゃるだろうが、第一弾は30万円のクラウドファンディングで目標を達成し、8月19日～9月3日で実施。今第二弾目標100万円で支援を募っている。こちらは、10代に限らず、心のケアを届けたくても有料だと中々難しいという方々のためのものである。

これに伴って無料のカウンセリングを行ってくれるカウンセラーも、全国各地から集めることが出来た。このシステムがある程度長いスパンで続くようにするには、コンスタントに支援をしていただける企業などを取り込むことが必要だろう。システムの構築のために、任意団体を立ち上げ、チラシ作りや周知、peatix の活用など、ここ1か月ほどあわただしく過ごしていた。仕事を減らし、少しずつ引退に向けて進めているのに、なぜか、結構忙しくなってしまった。これも私にもっと働けというどこからの啓示と受け止め頑張るか。ゆっくり、のんびりには向かない性分が幸いているかな(笑)
ご興味のある方はホームページをご覧ください。



TTTG (Trauma Treatment Therapist Group) ホームページ

<https://www.ttt-g.net/>
クラウドファンディング

https://readyfor.jp/projects/124064/preview?preview_token=bb60baa60324613733073d1aa5db8802f11b25db

公認心理師・臨床心理士・北海道

カウンセラー かわせり ぐさる うむ かかし 主宰

ああ、相談業務

P71～

先人の知恵から

P157～

大谷 多加志

仕事の関係で、幼稚園や小学校、児童養護施設など、子どもに関する施設にお邪魔することも多い。ここ数カ月、どこに行っても聞こえてきたのは「どう在籍者や利用者を確保するか」が各施設の課題になっているということだった。国立大学付属の小学校や、児童養護施設でも定員割れが生じていて、それをどう挽回していくかが経営上の課題になっているようだ。子どもの人口が減少していく状況の中、今生じている定員割れを挽回する方法とは何なのか？ 結局、限られたパイを取り合う状況になっていると考えれば、すべての施設が挽回することはあり得ないのでは…？ と考えていくとなかなか展望は明るい望みにくい気がした。子どもが減っているならその分厚い体制の教育や福祉にすればいいのに、と率直に思うが、各現場では子どもの減少に合わせて体制も縮小していくのが規定路線であるようだった。2040年の多死社会に向けて、葬儀社ばかりが増えていく現状に、若者が将来期待を持ちにくいのも自然なことのように感じる。

発達検査と対人援助学

P87～

馬渡 徳子

古着屋さんが好きだ。

訪れたことのない県外の仕事があると、まず古着屋さんを検索する。空き時間に、県内では見かけない古着やボタン、古典的なレースを見つけると「これで、次はどんなお人形を作ろうか。手持ちの服をどんな風に変えようかな。」とワクワクする。

ふりかえると、子どもの頃からミシンや編み機の音に癒されていた。我が家の二階に大手服飾メーカーの下請けとして在宅ワークをしておられた上品で標準語を話す素敵な方がおられた。私は、母に叱られると、逃げたくて泣きたくて、仏壇に供えてあるお菓子や果物を「おさがりください」

とそおつと持ち出して、「母からおすそ分けです。休憩くださいませ。」とその方の部屋を訪ねて、しばらく居座っていた。

切れ端の綺麗な布やレース、欠品扱いの素敵なボタンを使って、私のリカちゃん人形の洋服や帽子、私の洋服もよく作って頂いたので、当時の田舎には売っていないようなデザインは、子ども心に嬉しかった。

その方が、「他人と同じことを目指さなくてもいいんですよ。大勢が賛成することが正義では決していない。中学生になったら、一緒に行動することを強要する女友だちも多いと思う。けれども、流されないで『私は私。嫌! 違う!』と言える人になってね。これはそのおまじない。」と、中学校のセーラー襟の裏に、私の名前とスマイレの花の刺繍をして下さった。

そのおまじないのためかな、こんな大人になりました。(笑)

馬渡の眼

P140～

鶴谷 圭一

保育日誌や保護者向けのおたよりにキャプション付きの写真を使う「ドキュメンテーション」が一般的になってきたように思います。文字で全部説明しなくてもいいからラクですが文章力は落ちるでしょうね(˘˘)

デジカメが出てきた頃から保育者が保育中にカメラを手にするようになって、原町幼稚園では iPhone が主流です。ポケットに入れておいてスツと差し出しカシャッと写真を撮ったり、動画を撮る。それがほんとにスムーズになりました。おかげで先生たちの iPhone は映像でいっぱいです。(クラウドに上げてありますが、どんどん増えます。)なぜ iPhone かというと、AirDrop 機能で写真や動画を簡単にすばやくやり取りできるので、お互いに必要な素材をやり取りしたり、MacPC で素材を使うのにとっても便利だからです。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ [haramachi.k](https://www.instagram.com/haramachi.k)

ツイッター [haramachikinder](https://twitter.com/haramachikinder)

幼稚園の現場から

P61～

水野 スウ

これまでで一番暑い！夏でした。エアコンなしのわが家は、扇風機と、周りの木々を抜けて大きな窓から入ってくる風が頼り。この緑のエアコン、思いのほかよく効くんだけど、それでも今年はさすがに厳しかった。8月最終週、夜風がやっとな肌寒く感じられるようになってきて、少しほっとしてるところです。

日本各地におられるマガジン執筆者のみなさんは、この夏をどう生き抜かれてるんだらう。いいお知恵あったらわけてほしい。私の場合は、秋に大きく体調崩さぬための予防をひたすら心がけました。起きるなり一杯の熱い白湯をすすり、氷のはいった飲み物をとらず、はだしを避けて靴下をはき、毎晩お腹にお灸してから眠る、など。

暑さはこの先もまだ当分は続きそうなので、どなた様にも真剣に、残暑お見舞い申し上げます。

「紅茶の時間」は今年で満40年になります。今回はそれをふりかえると同時に、紅茶を始める前のはるか遠い日の私のことも、片手かざしてふりかえり、眺めてみました。その手がかりに、とつくれた「スウすごろく」は私の年表みたいなもの。それをひもときながら綴った今号は、まさに私自身の当事者研究となりました。結論は、私ってやっぱりおもしろい生きものだ！

きもち言葉さがしている
P81～

中村 正

市川沙央さんの『ハンチバック』(文藝春秋、2023年)を読んだ。芥川賞受賞作である。障害当事者の経験をもとにしている。その中で、「健常者優位主義」(35ページ)という言葉がでてくる。それにマチズモとルビが振られている。具体的な描写はこうだ。「私は紙の本を憎んでいた。目が見えること、本が持てること、ページがめくれること、読書姿勢が保てること、書店へ自由に買い物に行けること――5つの健常性を満たすことを要求する読書文化のマチズモを憎んでいた。」(27ページ)と。「なるほど！」と思った。障がい者と女性が交差するまなざしからみた日常性のいらだちが基調に

なっていると読める。健常者と男性が交差し、主流となった日常性がつくられている様子もよく伝わる。マジョリティの特権が浮かび上がる。そうした中を生きている体験をもとにした棘ある描写が続く。それらをつなぐものとしてのマチズモがあり、読書文化という対象の中心を支えている。これはルビを振る力だと言えるだろう。作家は言葉のプロだと思った。もちろん社会科学や人文科学的でもある。障害学を小説という形式で伝えてくれる本だと思った。狭い意味での学問に閉じない知の広がりや深まりを感じる。そう感じさせてくれるのだからやはり小説の力なのだろう。文学、漫画、映画など、時にはスポーツも含めて人間と社会の理解を深めてくれる、学術や学問とはまた異なる知の力を感じた。こうした世界に時間を割きたいものだ。

臨床社会学の方法
P25～

千葉 晃央

『達人ケアマネ』(日総研)の誌面で連載が始まりました。これまで特集『家族療法の基本とアプローチにおける留意点』の掲載、そして前回の連載テーマ6回「家族支援と対人援助」に続き、今回はテーマを「家族の努力を見逃さない！家族の理解者になるためのジェノグラムを使った事例検討会」(情報誌：隔月刊誌 達人ケアマネ 8・9月号目次 (nissoken.com))として6回連載予定です。初回は、ジェノグラムからできるライフステージごとの経過を検討し、ケースの理解を深める内容を書きました。秋田・京都ジェノグラム研究会の仲間、大沼さん、鈴木さんにもご協力をいただき、誌上ジェノグラム事例検討会と合わせて、ジェノグラムのどこを見るか？「年齢差」をテーマに書きました。さらにオンラインでの事例検討会を企画もしてみました。これからの連載も何を書こうか考えます。



中央法規さんから発刊された本の2周年記念として、オンラインでの事例検討会

も行いました。早樫一男先生、寺本紀子先生と一緒にある事例からジェノグラムを用いた事例検討会を行いました。初めての方も慣れていただけた方もおりましたが、無事協力して終えることができました。第2回目はこのテーマで！という振り返りも終わり、また次の展開もあるかもです。



家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P18～

団 士郎

毎日いろんな事をしている。誰でもそうだとわれわれが言いたがる、ちょっとだけ言うと、その中に暇つぶし、時間つぶしはない。それは最近のことではなく、40代くらいからそんな感じだったかな。昔は、賭け事とかゲームの類いのことも楽しんでた。それがいつの頃からか姿を消してしまっただけ。多分、kill timeという言葉を知ってからだ。暇つぶし、時間つぶし、そんな時間はない！と思ったのだ。

楽しんでいる人をとやかく言う気は全くないことはお断りしておきたいが、とにかく能動的に楽しめることしかなくなってきた。それで今日までやってこられたのだから有り難いと思っていればいだけのこともかもしれない。

労働に関して、好き嫌いで決めることに徹したのは50歳からだ。公務員という組織労働を卒業した後は、それを最優先で決めてきた。立命館大学の教員としては、そんなわがままが通るかなり特殊な雇われ方だった。ノルマは少なく、やりたい事だけのびのびやれていたのは同僚達のおかげがあった。(ありがとうございます)

その結果が今にまで至っているのだが、誰も彼もがそういうわけにはいかないよと言われるとそう思う。

今、とても忙しいのにストレスがない。やりたいことばかりでスケジュール帳が埋

まっているなんて理想的だ。感謝しかありませんよ、まったく。

晩年 D・A・N 通信④

P45～

中島 弘美

猛暑が続いている。

これまでは、予約時間になると、ご家族を面接室に案内して、はい、スタートという流れだったが、この夏は異なる。少し休憩をして、涼んでもらう時間を設けた。うちわを準備し、水分補給と塩分補給の確認。汗だらだらで急いで来られる方、早めに来てロビーで休憩してから来所される方も。

コロナ感染拡大のときは飛沫の影響を考えて「飲み物はできれば、飲み終えてから面接室にお入りください」とお願いしていたが、いまは、水分は大丈夫ですかと途中で確認することもある。

一方、来られた方の経過を聴いていると、「再びコロナにかかりました、二回目です」という報告もあり、コロナの影響は消えていない。

安心してゆとりをもって、対面でカウンセリングを受けていただくための優先順位は簡単ではないなあと思う

カウンセリングのお作法

P42～

藤 信子

薬師寺が国宝東塔落慶記念で、東塔と西塔を特別公開していたので行ってみたい。特別公開とは、両方の塔の1階の部分に入ることができるというもので、塔の上まで行けるわけではない。その1階部分には、釈迦八相像があり、それを見ることが出来た、私はここには随分若いとき(高校の修学旅行だったか)に来たばかりだったので、その時は東塔しかなかった。唐招提寺が近くなので、そちらにも回った。木が茂っていて、それに囲まれるようなお堂や、周りは、奈良の街並みから少しはずれているせいか、人も多くなく、ゆっくり歩けたのも良かった。

解放の心理学へ

P39～

篠原 ユキオ

プレバトに漫画を！

『プレバト』というテレビ番組がある。芸能人やスポーツ選手が出されたテーマに沿って俳句や絵を描いて競うという作りである。俳句がメインだが水彩画や消しゴム版画などというものもあって、構成に変化を持たせている。

芸能人たちの隠れた才能を発見する事もあるが一見うまく見えても素人は素人だなと思わせるものも多い。

テレビの前でツッコミを入れながらここに漫画バージョンがあったらなあと常々思っている。

ストーリー漫画を即興で考えるのは難しいが、4コマ漫画や1コマ漫画をその日のニュースや話題にあわせて描くというのは可能だ。俳句と同じでペン1本ですぐできる。

僕は大学の授業では90分の間に100点ほどの学生作品の添削を毎週アドリブでこなしてきたからそんな企画があれば是非ともやらせて欲しいのだと密かに思っている。

HITOKOMART

P227～



見野 大介

まだまだ暑いけど、夜は秋の虫の音色も聞こえてきて、涼しく感じるようになってきた。もう一年の半分が過ぎ、秋のイベントラッシュが近づいていることに焦るばかり。虫の音色をBGMに、今夜も残業です。

ハチドリ器

P4

鶴野 祐介

本誌連載中の「うたとかたりの対人援助学」を元にして、このたび『うたとかたりの人間学 いのちのバトン』(青土社)を刊行しました。ぜひお読みください。

うたとかたりの対人援助学

P161～

山口 洋典

コロナ禍も収束かつ終息の傾向と見えて「4年振りの」という枕詞に触れる機会が多い、そんな夏を過ごしています。中には「4年がまんして」というものもあります。その1つが宮城県気仙沼市、唐桑半島の鮎立地区にあるツリーハウスのお色直しです。2014年から2015年にかけて東北ツリーハウス観光協会と立命館災害復興支援室とのプロジェクトで海の見える小高い場所に整備した床や外壁を、8月21日から25日まで、学生4名を交えて塗り直してきました。

ただ、学生にとっては「〇年振り」でも「〇年がまんして」でもなく、「今年が初めての〇〇」という経験も多いのかもしれませんが。中でも気になるのが「今年が初めて対面授業でのレポート」と思われる学生がいたことです。今回、本務校のみで631人分の採点を行ったのですが、論理的な構成、授業内容との関連づけ、文献やインターネット等からの引用に基づいた情報・知識の整理、独自の視点の提示、そうした基本的な事柄が整っていないものが散見されました。生成系AIの台頭が叫ばれる今日この頃ですが、それらの技術を使いこなす上でも、野球でバットの素振りを繰り返すように、まずは読み書きの基礎を習得していただきたいと、かつての自分を棚上げにして思う今日この頃です。

PBLの風と土

P169～

小林 茂

今月、人間ドックに行ってきた。昨年の健診の結果と似た数字と、しばらく変なだるさと気力がわかない日が続いていたが、どうやら変なウイルスをもらっていたらしく、それが数値に現れていた。わかったからと言って気持ちが明るくなるものではない。

前職を退職してから無理がたたったのか、退職した月の翌月に病気が見つかり、それ以降治療を続けている。病気は慢性疾患の一つだが、長時間労働と不規則な食生活、職場内のストレスが想像以上に身体に負担をかけていたのだろう。その後、大学の教員もすることになり、その後

の臨床の過程でヨーガに関心を持ち、研究しながら毎週ヨーガを始めた。始めて3年目になったが身体的にも変化を実感できるまでになった。現状維持ではなく良い方に変化したと思う。これが健康体であれば、もっと変化を意識できたのではないかと思わされる。いたずらに健康を意識するような健康オタクになろうと思わないが、無駄に医療と薬のお世話になることを思えば健康であることは大事に思う。

対人支援点描 P113~

尾上明代

春 semester が終わって、夏季集中授業などで再び多忙になる前に、思い立って八ヶ岳・清里へ行った。

Do your best, and it must be first class.
(最善を尽くせ、そして一流であれ)
これは、戦後の日本の復興に多大な貢献をしたポール・ラッシュのことばである。彼は清里高原の開拓にも力を注いだ。私が若いころに清里で出会いインパクトを受けたことばである。今回、ホテル・ハット・ウォールデンで絶版の本を見せてもらって、彼の業績に触れ、改めてその構想の偉大さに感動した。

八ヶ岳はとても好きな避暑地の一つで、今回は数年ぶりの訪問だったが、他の場所と変わらない暑さだった。しかし、夜は多少気温が低くなってくれた。初めての、非日常過ぎる夜の森のツアーが素晴らしかった。漆黒の森で動物の気配や音に耳を澄ましたり、木の香りを嗅いだり、大地に寝そべり星を眺め、自分の呼吸と一体化したり！まったく人工的な明かりがない夜の森に入ることは、絶対に一般人だけではできないことだ。ツアーガイドさんの案内が秀逸だった。とても興味深いお話を聞きながら、異世界を安全に探索できた。また行きたい！

寺田 弘志

夏季休暇に東北南部各地を訪ねてみました。行って良かった！私のお勧めスポットは・・・
上杉神社、伝国の社、蔵王山のお釜、母成温泉、磐梯山、諸橋近代美術館、鶴ヶ城、会津さざえ堂、北方文化博物館、東北には新しい発見がたくさんあります。

ただ東北は、午後4時などに閉まる施設が多いです。実質的な時差でしょうか。閉館時間がもっと遅ければ、行けたスポットがいくつもあります。東北では早めに行動することが旅のコツです。

そして、米沢牛・新潟牛・粉そば・新潟の地酒などおいしいものいっぱい。

閑空から飛行機で1時間ちよつと。あとはレンタカーで回るのが便利です。新潟で大学時代の友達に再会。私は忘れていたのに、友人が昔のことをよく覚えているのに感心しました。本文は、記憶力の悩みから、私が一生涯の不覚をしてしまう話です。

接骨院に心理学を入れてみた P175~

古川 秀明

タブレット(学習端末)を使った自殺予防健康観察の取り組みについて、何とか4月実施にこぎ着けた矢先、文科省から以下の通達が来ました。



講演会&ライブな日々 P103~

工藤 芳幸

7月初めに2年前から準備してきた第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会を無事に終えることができて流石にホッとしたのも束の間、その後もオンデマンド配信の準備や大学の業務が押し寄せて、気づいたらお盆を過ぎていました。

そんな中、我が家にねこが来ました。高校生の次女が保護猫カフェでボランティアをしており、1ヶ月の預かりをすることになったのですが、結局そのまま我が家のねこになりました。まだ5月の子猫です。ね

このことは全くの初心者。ねこがやることなすこと、関心を持つものがどれも新しい体験です。ねこは指差しに反応するのだろうか？共同注意をするのか？ということが私の関心事で、今のところ指差しすると指した方向ではなくて指の先をじっと見ています。人間とは別の行動原理で動いている生き物が身近にいと、人間社会で体験している「人の壁」のようなものから少し距離を取れるような気がしています。



みちくさ言語療法 P223~

原田 孝

今の教育界は、激しく変化の波が押し寄せています。様々な方向を向いた波で、「それはちょっと極端では・・・」というような方向への波もあります。基本的に教育は子どもたちの成長を支援するものです。健全に、バランスよく、しかも合理的に成長をサポートできるシステムの構築が目標であるべきでしょうね。今回の居場所も、単に不登校生の居場所だけでOKではなく、その原因へのアプローチも同時に行いましょうということ内容になっています。

先生のための16の言葉 P295

安發 明子

10年の活動の軌跡が一冊の本になった。フランスのエデュケーター国家資格のガイドラインには養成課程で第二外国語の習得まで課せられていて、それは、海外も含めた自分の実務分野の情報をアップデートし共有し職業の発展に貢献することが求められているからである。日本では実務者自身が日常的に海外も含めた情報収集をする機会は少ない。だからこうい

う本があることで、日本の福祉の発展についての議論に花を咲かせることができると思う。フランスの福祉は合理的で人間的な工夫がちりばめられている。日本でモヤモヤと抱えていた気持ちにパズルがはまるように、探していた言葉や考え方に出会えた。是非議論のたたき台に使ってほしい。

Akikoawa.com

一人ひとりに届ける福祉を支える
**フランスの子どもの
育ちと家族**

安藤明子 著



**フランスのソーシャルワーク
P231~**

小池 英梨子

里親募集中な猫さん新着情報

チャコ。9歳。おばあちゃんとずっと2人暮らしをしてきましたが、おばあちゃんが亡くなってしまいました。お膝の上が大好きです。猫は嫌いです。一緒に暮らすとても楽しいともいます。そのほか里親募集中の子は「ねこから目線。里親募集」で検索！



**そうだ、猫に聞いてみよう
P151~**

竹中 尚文

今回は、休載にさせていただきます。約10年間、一緒にやってきたホームレス支援団体を抜けることになりました。突然のことでした。先月と先々月にインタビューをさ

せてもらった方に8月の支援日に最終原稿を持ってくと申し上げていました。それが、急に8月から私たちがこれまでの団体から抜けることになったので、インタビューに応じてくださった方々に会うことができなくなってしまいました。そんな事情で今回は休載に致します。◆これまで私たちがやってきたことについて、私はそれを善行と認識することができなかったのです。ホームレス支援という行為を善い行いとする人は、多くいらっしゃると思います。しかし、私はこれまでやってきたホームレス支援を善い行いと考えることはできません。私は仏教僧として、浄土真宗の僧として自らの行為を善行とすることはできません。◆他の観点からみても、自らの行為を善行とするなら、自分は善い人と思ひ込みやすいものです。援助者としての自分を善い人と考えると、気づかないうちに非援助者に上から目線になることが危惧されます。援助者と非援助者の関係は常に平等でなければなりません。◆今、マスコミがホームレス支援のボランティアをしている人を善い人として取材することが多いように見えます。人間に対する思いこみであり、決めつけです。

路上生活者の個人史

休載

きむら あきこ

54年間生きてきて、一番夏が長い年になりました。冷房不要な北海道だったはずなのに、夜になれば気温が下がる北海道なのに・・・これまでの北海道の夏とは全然違う、長い夏！

我が家、冷房がなく、そのまま寝ていたから、うっかり死んでしまうかも?!という危機感を覚えました。なんとか生きていますが、夏バテです。

ということで、本編を書く力がありませんでした。暑さに負けて、1回休み、です。

かぞくのはなし

休載

山下 桂永子

今回は休載いたします。書きたいことはあったのですが、言い訳です。今年の夏は、暑すぎて外に出る気が起きず、ほぼ室内で過ごしていました。それなのに風

邪を引いてしまったところからの喘息になり、薬を飲み、吸引しながらなんとか予定をこなしながら仕事をする日々。「遊んでないし、外にも出てないのに体調不良になるのなんでや?」となげく私に友人が「運動不足や」と突っ込みます。運動不足で体調不良になったり、話題が健康の話になりがちなのは確実に大人の階段を登っているということですね。子どものころは8月31日には火事場のクソ力を発揮し、宿題をなんとか終わらせていたのですが、今回は対人援助マガジンの原稿を書き始めたものの、あきらめるという大人の決断をしました。また次回読んでいただければ幸いです。

心理コーディネーターになるために 休載

脇野 千恵

夏になる前は、夏の暑さを想像もできなかったが、今年はさらに猛暑続きにやっばり来たなと思った。地球レベルでは、このような暑さは、埃が飛ぶ程度のもだろう。しかし、日々人間は生き暮らしている。さすがに長い人生で、明らかに自然のありようが変わってきているなど感じるこのごろ。8月初旬強い台風接近に伴い、年に一回の趣味の楽器のコンクールに参加できなくなった。台風の進路が定まらず、いつ帰れるかわからないとなると断念するしかなかった。長期にわたって交通手段が絶たれるとどうしようもない。それまでのオンラインでの練習も含め、ことのほか熱心に取り組んできたのに。

実は3年前、コロナ禍で断念した経緯があり、リベンジのチャンスだった。また1年間練習に励むことになるのかと思うと、ちょっと自信がない。元気でいられだろうか...と考えてしまう。まさかという事故は起きるものだなと思った。

こころ日記「ぼちぼち」

休載

一宮 茂子

【ロシアのウクライナ侵攻】

ロシアのプーチン大統領(以下プーチンと略)は、2022年2月21日、停戦協定を破棄してウクライナ東部で親ロシア派武装勢力が独立を宣言していたドネツク、ルガンスク両州を共和国として承認しました。

そして同年2月24日から1年半以上経過した現在も、ロシアは終わりの見えない壊滅的な攻撃をウクライナに仕掛けています。戦死者の数は増え続け、ウクライナ国民の多くが難民となって国外へ脱出しています。

プーチンの目的は、威圧され民族虐殺にあっている人たちを守るためであり、ウクライナの「非軍事化と非ナチス化」を実現するためだと述べています。ウクライナで民族虐殺はおきていないし、ウクライナは民主国家でゼレンスキー大統領はユダヤ系です。こんな訳のわからない理屈で他国に戦争を仕掛けるプーチンは常軌を逸しています。他国を力でねじ伏せてわが領土とするような指導者に世界も自国民もついていくはずがないと思います。ロシア国民はこのような実態を知らされているのでしょうか。情報統制や封殺などでプーチンにとって都合なことは隠しているのでは？一刻も早くこの戦争が終わることを願っています。

生体肝ドナーをめぐる物語 休載

岡崎 正明

50歳が見えてくる年齢にもなると、「生まれて初めての経験」というものが少なくなるはずなのだろう。でも個人的にはそんなマンネリ感はあまり感じず、結構新しい経験や発見の日々な気がしている。それは元来のADHD気質のせいかもしれないが(?)、コロナ禍を経験したことも大きいかもしれない。なんだかあたりまえの日常や非日常に素直に感謝できるようになったのは、私だけではないだろう。

この夏、中2の息子と台湾へ行った。我が子と行く初の海外。初めて空港で車イス対応を頼み、初めて行く小籠包の店で最高にうまい食事を食べ、初めて行った夜市で注文と違う料理が出てきた。帰国後も、盆休みには初めて下の娘と輪ゴム飛ばしだけで1時間以上遊んだ。そして何より11月11日~12日には、対人援助学会初の広島での年次大会で、生まれて初めて大会事務局の共同代表というお役目をさせてもらうことに(みなさんぜひ広島にお越しください！)。

もちろんプライベートでも仕事でも、不安や大変なことも横たわっているが、それ

でもこうしてやれていることにひたすら運の良さを感じる。本当に感謝しかない。

さてそんなわけで？この度、人生初の「休載」をすることにした。子どもの頃よく漫画雑誌で「作者取材のため今号は休載します」というのを見て、悔しいようなちよつとカッコイイような気がしていたが、まさか自分ができるようになるとは(笑)大人になったなあ。事情はわりと前向きな理由なのだが、詳細はまたこのマガジンでお知らせしたい。次かその次には復活できるようにしたいと思っています！

役場の対人援助論 休載

荒木 晃子

2023年10月島根県に導入されるパートナーシップ制にむけ、LGBTQ当事者支援に注力する同志と共に、あれこれ画策中である。これにより、法的保証はなくとも、社会制度として当事者の家族形成に新たな選択肢が広がることになる。

勤務する医療施設では、婦人科の看護師、胚培養士、受付スタッフ、内科の看護師、検査技師スタッフたちの研修に向けた勉強会を予定している。受診の必要がある当事者を迎えるために、LGBTQの基礎知識はもちろんのこと、患者としての対応や問診票の項目の見直し、診療時の対応など、受療する新規患者の対応に多くの留意点が認められるからだ。数回に及ぶ院内勉強会には、レインボーパレード主宰当事者を講師に迎える会も設けた。医療者がわからない/知らないこと、注意すべきことを問い、また、当事者からは医療現場に望むことの教示を受けたい。当然、医療現場/医療者ができること/できないこともある筈だ。大切なことは、互いにそれを知り、理解したうえで支援につなげることであろう。

例え、新たな制度を導入しても、その制度のなかで、どのような支援が必要か、援助者は何ができるのか、それを誰がするのか、がわからなければ、当事者が健康で安全な日常を送ることは難しい。同時に、当事者はどこの誰に支援を求めて良いのかを知る必要がある。

現在は、来月に迫るパートナーシップ制導入にむけ、援助者同志が直接、当事者の声を聴き、医療・教育・子どもの福祉・心理サポートの各領域で、当事者支援に取り組む準備を進めている最中である。新たな支援にチャレンジする経過は後日整理してこちらに掲載する。

微力な筆者は、今しばらくは援助実践に全集中のため、今号も休載とさせていただきます。

生殖医療と家族援助 休載